

第8回岡崎市水道事業及び下水道事業審議会 会議録

1 会議の日時

令和元年10月30日（水）午後2時から午後4時まで

2 会議の場所

岡崎市役所西庁舎7階 701号室

3 会議の議題

(議題1) 水道ビジョンの進捗状況について

(議題2) 平成30年度水道事業及び下水道事業決算の概要（下水道事業経営ビジョンの進捗状況）について

4 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（9名）

学識経験を有する者	丸山 宏 (会長)	愛知産業大学経営学部 学部長・教授
	富永 晃宏 (副会長)	国立大学法人名古屋工業大学大学院 教授
	内藤 公士	公認会計士
	牧野 守	弁護士
水道又は下水道の使用者	白濱 小夜子	岡崎商工会議所
	石川 きぬ枝	あいち三河農業協同組合
	笹部 耕司	連合愛知三河中地域協議会
公募した市民	木俣 弘仁	
	内田 裕子	

(2) 欠席委員（1名）

水道又は下水道の使用者	宮本 大介	岡崎市六ツ美商工会
-------------	-------	-----------

5 説明のため出席した事務局職員の職氏名

水道事業及び下水道事業管理者 伊藤 茂、
上下水道局長 岩瀬広三、上下水道局次長（水道工事課長） 荻野恭浩、
上下水道局次長（総務課長） 柴田清博、サービス課長 神谷秀樹、

水道浄水課長 小林立明、下水施設課長 藤野真司、
下水工事課長 富永道彦、
総務課副課長 岡本秀樹、総務課財務 1 係係長 杉浦幹夫、
総務課財務 2 係係長 神尾清達、総務課財務 1 係主任主査 佐々木理史、
総務課総務係主事 竹村真菜、総務課財務 2 係主事 今泉高樹

6 会議の成立

事務局から、委員総数10名のうち9名が出席のため、岡崎市水道事業及び下水道事業条例第8条第2項の規定により、会議が成立していることを報告した。

7 会議の公開

本日の会議を公開することとした。(傍聴者なし)

8 会議録署名委員の指名

会議録署名委員に、木俣弘仁委員を指名した。

9 議事の要旨

(議題1) 水道ビジョンの進捗状況について

資料1に基づき、事務局が説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

(H委員)

項目番号14の危機管理マニュアルは何を対象としているのでしょうか。

(事務局)

耐震対策や、下水道であればBCP、水道であれば各浄水場などのマニュアルがあります。

(H委員)

最近は水害が多発しているが、水害についてはどういったものがありますか。

(事務局)

水害の危機管理マニュアルに関しては未着手であるので、今後整備していきます。

先日の台風15号、19号では千葉のほうでは停電の被害が甚大でありました。本市においても1週間程度の停電があった場合に、どういう状況にな

るかを庁内で調査しています。また、ハザードマップの見直し等も検討しています。

(F 委員)

過去に起こった浸水被害について教えてください。

(事務局)

平成20年8月末豪雨時は、施設としては美合汚水中継ポンプ場が浸水し、電気設備に被害が出ました。小さなものではマンホールポンプ所が浸水してしまいました。先ほども話が出たが近年ハザードマップの見直しが行われていて、従来から降雨量が大きく変わってきており、それに対応する形で見直しを行っている最中であります。

また、同豪雨が発生する一か月ほど前に、神戸市では、女の子が流されるなど同じような豪雨被害がありました。ちょうどこのころ線状降水帯と言って、局所的な集中豪雨のはしりが岡崎であり、一時間の降水量が146.5mmという、現在でも全国で8位ほどの記録となっています。当時は、河川の整備等も進んでいない中、下水道施設が前述の被害を受けたなか浸水被害も起こりました。今回の台風の雨量であると浸水被害が増大する可能性もあるので対策していかなければと考えています。また、昭和46年8月に乙川が氾濫し、浸水により男川浄水場が一週間ほど断水した経験を生かして、現男川浄水場は高さ等が考えられ、造成しましたが、昨今は想定外の降雨もあるので考えていかなければならないと思っています。

(F 委員)

2002年頃の東海大豪雨について、警察署西側の六名町近辺が浸水したと記憶していますが、上下水道局の施設で何か被害はあったか。

(事務局)

20年8月末豪雨の時の被害は特に大きかったです。東海豪雨に関してはそこまで大きな被害はなかったと記憶しています。

(B 委員)

項目番号45で施設跡地の売却検討で、八帖処理場は売却検討に入っているのか。

(事務局)

下水道事業になりますが、八帖処理場は平成20、21年ごろに流域下水道に接続した関係で、矢作川の下流にある、県の矢作川浄化センターに機能を切り替えたため廃止をしています。その用地の一部で汚水の中継ポンプ場を建設する予定があるので、その部分は局の所有となっていますが、それ以外は、特別会計時に一般会計へ所属替えしております。

(C 委員)

ハザードマップの見直しの終了の目処は立っていますか。また、8月末豪雨では支流の氾濫が多かったと記憶していますが対策は完了したのでしょうか。

(事務局)

当時の支川の氾濫としては、伊賀川、砂川、占部川が氾濫して多大な被害が出ましたが、この豪雨を受けて県と本市で市内5河川の河川改修を行いました。伊賀川であれば岡崎北高校あたりまでの改修が、占部川であれば全線、砂川であれば浸水常習地区であった福岡郵便局付近までの改修が完了しました。これにより主だった浸水対策の改修が完了したということになっています。

ハザードマップについて、矢作川水系に関しては計画最大降雨量ということで、※昨今の降雨も踏まえて平成28年度に改正されています。市役所の南側を流れる乙川に関しましては、先々月に改正されました。本市としては、国・県からの資料を踏まえて、改正していくということになります。

〈※回答の訂正：氾濫解析は完了したが、ハザードマップは改正されておらず、今後の作業で見直される予定である。〉

(I 委員)

項目38の上水道と簡易水道の経営統合につきまして、簡易水道事業の財務会計システムの整備に関し、どのような準備をしたのでしょうか。また、企業会計化できるようになっているのでしょうか。

(事務局)

簡易水道事業の資産調査を行いまして、そのデータを財務会計システムに投入しています。ある程度のセグメントができるようにシステム登録しており、令和2年4月から適用できるようになっています。

(議題2) 平成30年度水道事業及び下水道事業決算の概要 (下水道事業経営ビジョンの進捗状況) について

資料2に基づき、事務局が説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

(G 委員)

14ページの下水道事業の損益計算書について、営業収益の他会計負担金は雨水処理費の負担金だと思いますが、営業外収益の他会計負担金はどういう負担金ですか。

(事務局)

分流式下水道等に要する経費など、総務省が示す繰出基準に定められた汚水処理費については営業外収益とし、同じく繰出基準において雨水処理経費は営業収益に区分けされています。

(G委員)

下水道事業は財務的には非常に厳しい状況ということですが、万が一資金が足りなくなった場合の主な調達先は、企業債になるのでしょうか。

(事務局)

1年以内の一時的な資金ショートについては、水道事業からの一時借入金により対応します。平成30年度においては、水道事業から2回の借入を行いました。長期的な対応としては、企業債の借入になります。

(G委員)

今後も厳しい状況が続くのでしょうか。

(事務局)

平成4年から平成20年頃までに急激に汚水事業を展開しましたので、当時借り入れた企業債元利金の返済が今後10年程度は多く、厳しい状況にあります。その期間を乗り切れば返済額は少なくなってまいります。そのために、平成30年度から資本費平準化債を借り入れています。

(G委員)

資料11ページの下水道事業の年間有収水量は増加していますが、資料2ページの水道事業の年間有収水量は減少しています。水道と下水道の有収水量が連動しない理由を教えてください。

(事務局)

下水道事業では未普及地域の整備を進めている段階であり、下水道の接続戸数が増加したことに伴い、有収水量が増加しています。そのため、水道事業の有収水量には連動しません。

(C委員)

資料16ページの汚水処理原価の状況について、A（公費負担を含めた総原価）とB（総原価から公費負担を除いた原価）が挙げられていますが、類似団体との比較はどちらとすればよいのでしょうか。

(事務局)

公費負担の状況が団体によって異なるため、Bと考えます。本市は分流式下水道に要する経費などの営業外の他会計負担金が投入されていることや、広域的な流域下水道により処理費が安価に抑えられていますが、他の

流域では処理費が高額になっているところもあるなど、他の類似団体とは事情が異なっていると思います。

(C委員)

公費負担が団体によって異なるとのことですが、類似団体と比較して汚水処理原価が安いということは、公費負担が多いということですか。

(事務局)

汚水処理原価は、公費負担だけでなく、処理費用の影響もあります。本市の矢作川流域下水道の処理費用は、愛知県内の各流域下水道と比較しても非常に安価であるため、その影響も考えられます。

(C委員)

岡崎市の汚水処理原価は、類似団体と比較して安価ということですが、使用料単価について、県内37市平均値と比較すると本市は少し高い単価ということなので、汚水処理原価についても、県内37市平均値と比較すればあまり変わらないということではないでしょうか。

(事務局)

汚水処理原価について、県内37市においては、本市と同様に流域下水道によって合理的な処理が比較的できているため、委員が言われるように本市と近い数値となっていると思いますが、県外の同規模である類似団体との比較においては、単独の浄化処理を行っている団体も含まれているため、比較的処理経費が高くなっていることから、本市との金額の差が生じているのではないかと考えます。

(B委員)

資料9ページの簡易水道事業の基準外繰入金は、赤字補填のための繰入金ということでしょうか。また、基準外繰入金が毎年増加しているということは、毎年赤字が増加しているということでしょうか。

(事務局)

基準外繰入金は赤字補填のために繰り入れております。

簡易水道事業の会計処理は、収益的収支と資本的収支を分けておりませんので、基準外繰入金の増加理由が、収益的収支における赤字額の増加に起因しているとい一概には言えません。例えば、改築等の施設更新費用によっても左右されることになります。

(B委員)

資料19ページの農業集落排水事業についても同様に、基準外繰入金が増加しているのは、使用料収入の減収という理由もありますが、管理費等の増額によるものではないでしょうか。

(事務局)

お見込みのとおりです。

(B委員)

農業集落排水事業について、今後、新規の整備計画はあるのでしょうか。

(事務局)

既存設備の機器更新は行っていきますが、新規の整備を行う予定はありません。

議長がすべての議題の審議の終了を告げた。

10 上下水道局長挨拶

11 事務連絡

事務局から、次回、第9回水道事業及び下水道事業審議会の開催概要（令和元年11月20日水曜日）を連絡した。

会議資料

【事前送付資料】

次第

資料1：岡崎市水道ビジョン第4期実施計画 平成30年度進捗状況報告書

資料2：平成30年度水道事業及び下水道事業決算の概要（下水道事業経営ビジョンの進捗状況）について